

グリーンフィンガー 約束の庭

ポール・メイ 作 ・ 横山和江 訳

グリーンフィンガーという言葉は、響きでまず想像できたのはきっと上手に植物を育てる事のできる人の話なんだろうなあ。児童文学だから、どんな状態になっても最後はきつとハッピーエンドで終わって暗くなることはないだろうと期待して読み始めました。

主人公のケイトは文字を読むことができないというコンプレックスを抱えていて、学校で問題児の扱いを受け、ロンドンから遠く離れた農村に移り住みます。都会で仕事を続けたい母と緑に囲まれてのんびり暮らしたい父は引越しを機に別居状態になります。言葉には出さないけれど、ケイトのせいで母親と暮らせなくなったと思っっている弟のマイク。幼くて状況が判らない妹のエミリー。ケイトは弟や妹の手前、母親に対して素直に想いを伝えられなくなってしまう。ある日、隣に住む頑固な老人ウォルターに出会い、ジャングルの様になっている家の庭が、実はすばらしい庭園であったことを教えてもらい、母親に美しい庭をプレゼントするために庭を復活させてゆきます。今までどんなに頑張っても文字が読めなかったのに、庭造りをするためにプランを書き込んだノートを作ったり、植物図鑑を使ったり、不在の母の代わりに妹に本を読んだりすることでコンプレックスを克服してゆきます。人は自分にとって本当に必要。と判れば、どんな困難でもクリアできる。再度思い出させてくれた本でした。

N
F



さ・え・ら書房

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞